Vol. 27 No 7624 Thursday, June, 9 1932

TAIRIKU NIPPO

昭和七年六月九日（木曜日）第七千六百廿四號

大陸日報

TAIRIKU NIPPO
(THE CONTINENTAL DAILY NEWS)
PUBLISHED BY
TAIRIKU NIPPO SHA LTD.
218 & 218 CORDOVA ST. E.
VANCOUVER, B. C.

本紙定價（郵送）一ヶ月七錢五仙　六ヶ月四弗貳拾五仙　一ヶ年八弗五拾仙
廣告料金　一行一回五十七仙以上並ニ引續キ掲載ノ分ハ割引ス
廣告申込ハ毎週木曜日迄ニ願ヒ度シ
加入組合　日本人協同會
電話バンクーバー二七三二番
電話ダグラス四六六九番

紙はり

（借間貸持ベーハンガー）

小林

電話ダグ四六六九アール

◇東邦よ◇ 滿蒙の眞價如何

臨波生

滿蒙の天地が眼のうへに理想鄕の如く瞰まれ、同じ滿蒙の下に解されたとしたら、ないふことになるかといふ點は、ロシアの五年計畫以上に我國にとつては重大なる問題である。

從つて滿蒙を滿蒙の眞價に於て解釋の如何によれば、滿蒙ほど輕く解せらるゝ、輕視のうち、輕蔑のうちに葬られてゐるものはない。

◇

それでは滿蒙は全く不用ひとかいふと、決してさうではない。不用ひとならないのはこれまでの經驗が證明してゐるばかりではない。その安い滿蒙を持つて來て、大力發揮をつくるならば、勞力は非常に安くなるから、內地の水力電氣事業は非常な影響を受ける。

勞働者が歸れば歸つた上原の百姓からは石炭がとれるし、石炭を使つて、寒い、冬の間にする仕事が出來る。勞働者が豐富になれば、遠かに低廉に而かも大量に內地へ流れ込むであらう。

◇

その場合、政府は財政上、內地の農民を保護すれば宜しいが、平時輕に片づけようとするやうに、これを農村に見るに、朝鮮人は滿洲に進出して、都會に插つかる見込みが充分にあるから、これが低い生活費で來を作り、寒い、冬の他の農閑期に內地へ流れ込むやうになれば、遠かに低廉に而かも大量に內地へ流れ込むであらう。

◇

それでは

ひさご會句稿（上）

ボート・ムデーより

ボート・ムデー「ひさご會」の句稿をオカナガンの小林某氏宛に送つて、選にして貰いたのが次に挙げるものである。芳名の下の括弧に對して、「一同の點」に入らない所である。

俳句の選は「寒灯り」が當つた。「寒灯り」の題の選句數の2倍め、「一同の點」としたものである。

春曉

（天）　蟬山
春曉や悲流るゝ銀沿の音

（地）　孤村
春曉や山霧に海靜か

（人）　鐘野
春曉や聲高々と魚の市

佳作（順不同）

孤村
春曉や小鳥さゝやく森の中

三笠
春曉に相撲太鼓の遠響

麗々
春曉やジヤズの雪止まる銀座

雪寒

（天）　芳生
さゝれ石になる寒灯りや靜か

（地）　桃村
父一つ寒揚りぬ靜か

（人）　靜帆
寒揚る町はなめらかに風ぐ

佳作（順不同）

孤村
寒揚る聲の艶かや京の宵

蟬山
雪明りの窓に多陽や揚雲雀

芳生
雪明りの森の彼方や揚雲雀

桃村
寒揚る野はなめらかに風ぐ

鐘野
寒揚や聲高々と魚の市

三笠
春曉や靜かに鳥の聲聞ゆ

麗々
春曉やミルク配りの雪生

鐘野
春曉や漁夫の聲聞く邊り

桃村
春曉の公園を掃く箒かな

蟬山
春曉の白みし空や物靜か

芳生
春曉や靜かに鳥の聲聞ゆ

孤村
春曉や舟の出立ちの物の音

申渡

（天）　孤村
鯉の昇り空にはためくきほひ哉

（地）　蟬山
風並揃く空に晴れけり初雲雀

（人）　三笠
高々と車に晴れけり初雲雀

佳作（順不同）

芳生
初雲雀父が力みて立にけり

鐘野
初雲雀に明生れて初の昇り

桃村
初雲雀に明生れて初の昇り

ぼうふり

（天）　孤村
手子や夾水桶の古び水

（地）　同上
ぼうふりや溜水臭ふせんより日

（人）　蟬山
ぼうふりや古びし桶の幾り水

佳作（不同順）

芳生
ぼうふりや古びし庭の小池面

桃村
ぼうふりや古びし庭の小池面

靜帆
吹く風に空の曲げぬ鯉幟

芳生
吹き流す風情見る兒や鯉幟

芳生
男さしく風になびけり鯉幟

桃村
旧が家も黙かに吹くや鯉幟

三笠
吹きならす棟飾鯉や初幟

桃村
初節句に明お隣家の軒かな

鐘野
初雲雀に明お隣家の軒かな

芳生
初雲雀父が力みて立にけり

芳野
初雲雀に明生れて初の昇り

芳野
さゝれ石になる寒灯りや揚雲雀

桃村
父一つ寒揚りぬ靜か

桃村
寒揚る野はなめらかに風ぐ

芳生
寒揚る野はなめらかに風ぐ

桃村
寒揚る町の流れや揚雲雀

三笠
雪明りに峰る野鏡の揚雲雀

わぐり
雪明りの窓に多陽や揚雲雀

芳野
雪明りの窓見て寺や揚雲雀

芳野
雪明りの窓に多陽や揚雲雀

久米
雪高く降るかそかな寒雀かな

芳野
雪高く降るかそかな寒雀かな

芳生
雪消ゆる川ららめくや揚雲雀

桃村
雪消ゆる川ららめくや揚雲雀

桃村
雪消ゆる川ららめくや揚雲雀

久米
神利ふる冬田原の空や揚雲雀

芳野
雪消ゆる川ららめくや揚雲雀

芳野
雪消ゆる川ららめくや揚雲雀

パウエル街一二五五

炭 キマ ルーコ 新

パウエル新炭會社

電話ハイ三九二七
夜間ハイ一四四四アール

和洋雜貨食料品卸小賣
晩市パウエル街七八八
近江屋商店
電話ハイ一二三六

和洋雜貨食料品
東洋商業會社
P.O. Box 46, Port Essington, B.C.
專任大橋松次郎

コロンビアマッチ
御試用われ、上等の眞直な木目の木で造られ頭部は固く附着してゐますから外のマッチの様に飛んでしまふ様なことはありません、火附が好く充分滿足を得られます
家庭サイズ四百本入
ポケットサイズ五十本入
晩市及ヴイクトリア
スミス・デビッドソン・エンド・ライト會社
SMITH DAVIDSON & WRIGHT, LIMITED

4X
安値のみに迷はされな
御家庭の重要な滋養分の減少を意味します
四エッキスを御喰り下さい、それは本當のブレードです
一週六日毎日新鮮なものを何れの店でも賣つて居ります
カナデアン・ベーカリー

東カドバ街四三八
辯士 石原明之助
電話ハイ書壹壹

和洋雜貨食料品
東洋商業會社
P.O. Box 46, Port Essington, B.C.
專任大橋松次郎

パウエル街二一〇
下高原醫院内
影山齒科醫院
電話シーモア七六二六

東（ステングス街一九三
ドウソン建築内二〇三號室
オステオパシック學派
公認 宮崎醫院
ドクトル 宮崎政次郎
電話 醫院シーモア六一七
自宅ダグラス一七四七

東（ステングス街一九三
ドウソン建築内二〇三號室
オステオパシック學派
公認 宮崎醫院
ドクトル 宮崎政次郎
電話 醫院シーモア六一七
自宅ダグラス一七四七

東（ステングス街一九三
二宅齒科醫院
ドクトル 三宅榮壽
電話シーモア八六八六
住宅ハイ二一二五アール

東（ステングス街二四四
（政府酒販賣所より東二軒目）
葛原齒科口腔外科醫院
電話シーモア六一九〇

（キャピタル活書舘前）
メヂカルアートビルデング
六階六〇一—六〇四號
藤原齒科醫院
グランヴイル街八二五
電話 醫院ツリニテイ六〇三〇
自宅ハイ二七二六エル

新着御案内
◇素晴しい好評の新茶が來ました
値が安くて香味のよい
〇一斤 鐘入 九〇仙
〇半斤 鐘入 五〇仙
〇麥茶 一斤 十五仙
一、京ノ石疇 同 三十五仙
一、都鳥疇 同 三十五仙
一、八千代豆 同 二十五仙
一、昭和豆 同 三十仙
一、麥打 同 二十仙
一、味好越シ 同 三十仙
パウエル街二六九
香村商店
電話ドグラス九二
269 Powell St.

パウエル街二四四
小澤靴店
電話シーモア七六二六
住宅ハイ二五八六エキス

新着御案内
◇素晴しい好評の新茶が來ました
値が安くて香味のよい
〇一斤 鐘入 九〇仙
〇半斤 鐘入 五〇仙
〇麥茶 一斤 十五仙
一、京ノ石疇 同 三十五仙
一、都鳥疇 同 三十五仙
一、八千代豆 同 二十五仙
一、昭和豆 同 三十仙
一、麥打 同 二十仙
一、味好越シ 同 三十仙
パウエル街二六九
香村商店
電話ドグラス九二
269 Powell St.

和洋雜貨食料品卸小賣
晩市パウエル街七八八
近江屋商店
電話ハイ一二三六

和洋雜貨食料品
●●カマボコ
●●和洋食料品
パウエル街二六二
茶木魚店
茶木太三郎
電話ドグラス五五四二

●●魚類
●●肉類
●●青物類
晩市キャロル街四四四ウエストホテル内
電話シーモア九四〇一
ミッション電話一三七

ミッションヘネー
晩香坡市間定期客自動車
晩市發 午前十時半 午後二時 五時 七時半
ミッション發 午前八時 十一時 十時分 午後一時半 五時
週末特別乘車賃往復一弗九十五仙
Mission—Haney—Vancouver Stage
晩市キャロル街四四四ウエストホテル内
電話シーモア九四〇一
ミッション電話一三七

高等 南京料理
日本人諸君の御來店を歡迎仕候
晩香坡市パウエル街二五一
新 北京
電話シーモア五七七四 同三五一七

男子用 婦人用
春物新荷到着 時節柄大勉強にて御願致します
パウエル街三一九
電話ドグ一七四七
宮崎商店

電話シー四五三三
晩香坡市パウエル街三八〇
昭和倶樂部
事務所用 電話ドグラス五五二二

世評の高き
グッドイアータイヤ
其外自動車附屬品一切大勉強で御用命に應じます
邦人唯一のグッドイアータイヤ、特約代理店
晩市アレキサンダー街ゴーア街角
日本オート
電話 ダグラス 二八九九

テクタルは
綱、綱又は木の保護劑
テクタルは冷水で使用出來ます
テクタルは綱をよわくしません
テクタルを使用した綱は柔かく強いです
テクタルはドライラットを防ぎます
テクタルはトレド蟲の蝕みを完全に防ぎます
試驗はその有効を保證して居ます
晩市西ベンダー街一〇一八
スコツト・フオスター商會
SCOTT FOSTER & CO.

●高等 南京料理
コックは此の道の腕きゝで料理は貴賤の口に合ふやう
美味に調理 値段は大々的勉強
晩香坡市パウエル街三八二
新南京樓
電話シーモア七八七五

荷物運搬は
凡て確實
親切
勉強で
好評な
忠
運送社へ
電話ハイ一五六六
パウエル街四五一

新荷到着御案内
◇メープル印サヌキ白米
◇アルプス凍豆腐
◇櫻干いわし
◇大葉椎茸
◇日本菓子（種々）
◇サツポロ巻
◇淺草海苔（天下一品）
品切れせぬ中に是非御買求め下さい
晩市パウエル街四七五
薄利多賣
御客本位
ユニオン魚店
電話ハイランド二三六—五四九

雜書 雜誌
パウエル街三五七
新聞號
內田書籍店
電話シー六七一六

アレキサンダー街六六二
富士洗濯所
電話ハイ九九

347 Powell Street
Vancouver, B.C.
S. UCHIDA

晩香坡市パウエル街二八〇
北京料理
電話シーモア六一七

N.Y.K.
1404 - 4th Ave., Seattle, Wn.
日本郵船出帆廣告○印美府出帆
（船名）　（入港）　（出帆）
○靜岡丸　六月十四日
氷川丸　六月十三日　六月三十日
日枝丸　六月廿七日　七月十四日
○橫濱丸　七月十一日　七月廿三日
平安丸　七月廿三日　八月十一日
最近御歸朝の方には
夏季特別割引往復運賃をおすゝめ致します
△晩香坡橫濱間往復一等ツーリスト三百七十五弗
△發賣期間七月卅一日迄
△有効期間十月卅一日迄に日本發の事
百九十五弗
日本郵船會社シアトル支店
晩市 美市
代理店
B. W. Greer & Son Ltd.
Great Northern Railway

婦人家庭

日本の懐中藥「仁丹」原料は十五種

粉にする工場は山中に設けて　年産額は四百万円

日本國内はもとより、遠く滿蒙、支那、南洋方面にまでよく賣れてゐる仁丹が、大阪東區玉造町にある仁丹工場で製られてゐることはたれも知らないものはないが、この他に京都に出張所、名古屋に支店があり、それぞれ製造を分担してゐることは餘り知られてゐない、仁丹の原料は十五種類あるが、その中の重なるものは、アフリカ産の丁香、錦蘭の甘草、四国産のサフランであることは、ハッキリしてゐる

◇

第二工場は、これ等の原料を、粉末にするのが重な目的で、敷地六千六百坪、建坪六百坪、その殆々半分を占めた工場の中に備付けられた三百四十六の臼が、実に賑やかな音を立てゝ動いてゐる、工場といふよりは製粉場を想はせるやうな静かの地にあるこの工場で、製粉が大概に行はれてゐると聞いては、ちよつと不思議な氣がする、元來仁丹は十數種の藥種を調合してつくつた現在の藥品だが、もちろんその調合されてゐるものが、アフリカ産の丁香、錦蘭の甘草、四国産のサフランであることは、ハッキリしてゐるかは、勿論の眼りでないが、たゞそのうちに比較的大量に使用されてゐる藥品の一つに、ヒマシ油があるといふことだけは、ハッキリしてゐる

◇

扨この粉末にするのが重な目的で、敷地六千六百坪、建坪六百坪、その殆々半分を占めた工場の中に備付けられた三百四十六の臼が、実に賑やかな音を立てゝ動いてゐる、工場といふよりは製粉場を想はせるやうな静かの地にある

大統領の隣人――英國大統領ラーバーが健康の爲めヤングの生活をしてゐる處はヴァージニア州ウヒッダン――ヤングの隣に永住してゐるのが此のローヒン一家――左からハーリー、ベッツー、ヒューム――大統領閣下、ロン左山の中に驚ゐて居るのである

不況のドン底に呻く 世界の大不安

癒着の重債問題を手術する ローザンヌ會議迫る

不況のドン底に呻いて居る世界の大不安――その主要なる原因の一つは獨の巨額に上る賠償問題の解決に關した問題であるが、改めてそれに觸れる迄もなく、獨逸は戰後、英佛伊白等の連合國に對して、賠償金の支拂ひを約束したのであるが、獨逸の經濟界は、戰後の混亂と、インフレーションの激甚とに因つて、全く破滅の狀態に陷つたので、獨逸は遂に賠償金の支拂ひを拒絶するに至つた――これが世界大戰後の國際問題の中心となつたのである

獨逸の賠償問題に關しては、英國は最も關心を有つて居るのであるが、英國は、獨逸の賠償金を以て、米國に對する戰債の支拂ひに充當して居るので、獨逸が賠償金の支拂ひを拒絶すれば、英國は米國に對する戰債の支拂ひが出來ないといふ關係にあるので、英國は獨逸の賠償問題に對しては、最も重大なる關心を有つて居るのである

英國は、獨逸の賠償問題に關して、一九二一年ロンドンに於ける會議に於て、獨逸の賠償金を金貨で一千三百二十億マルクと定めたのであるが、獨逸は、其の後、インフレーションの激甚を來したので、一九二二年カンヌに於ける會議に於て、賠償金の支拂ひを延期する事を要求したのであるが、英國は之を拒絶したので、獨逸は遂に賠償金の支拂ひを中止するに至つたのである

獨逸の賠償問題に關しては、英國は、獨逸の賠償金を無二百億マルクに減ずる事に決定したのであるが、英國は、獨逸の賠償金を減ずる事に決定したのは、獨逸の賠償金を減ずる事に決定したのは、獨逸の賠償金を減ずる事に決定したのは

八釜しく主張される 平價の切下げ

高橋藏相強硬に反對 民政黨も反對で物にならぬ樣子

（第一報）高橋藏相は本日午前十時より大藏省に於て鈴木政友會幹事長、山本商工大臣、町田農相、小泉鐵相、中橋文相、床次内相、望月遞相、俵逓相、川崎拓相、前田法相、小山農相、小川鐵相、永井國務大臣の十一閣僚と會見し、金解禁後の經濟界の情勢に對する意見を交換したが、席上藏相は金解禁後の經濟界の情勢に對する意見を述べ「金解禁の實施は物價の下落を促すが如きは斷じてない」と強硬な態度を示した

（第二報）鈴木政友會幹事長の重大性に鑑み本日午前十時三十分より藏相官邸に於て藏相に意見を求めたが何れも強硬反對を唱へた、本日午後政友會、民政兩黨幹部會後、政友會幹部は金解禁の實施に對する態度を決定するが其内容には非常時局打開の爲め金解禁實施の斷行を要望する點を強調し、民政黨は金解禁實施の爲めには先づ財界の安定を圖るべきであるから、先づ藏相をして金解禁實施の不可なることを聲明せしめ、政友會案に對しては絶對に反對する事に決した、尚ほ近く開かるべき兩黨幹部會に於て金解禁實施の不可なることを聲明する筈である

（第三報）政友會幹部の平價切下に關する意見は本日午前十時より藏相官邸に於て藏相と會見した際藏相に對し長岡藏の小山總務、井上藏相秘書官等の列席の下に政友會幹部の意見を述べたが、藏相は金解禁實施の時期に關しては何等觸れず、單に金解禁實施の爲めには先づ財界の安定を圖るべきであるから、なるべく速かに實施すべきであるとの意見を述べたに過ぎなかつた、尚ほ藏相は政友會幹部の意見に對しては何等觸れず、單に金解禁實施の爲めには先づ財界の安定を圖るべきであるから、なるべく速かに實施すべきであるとの意見を述べたに過ぎなかつた、尚ほ藏相は政友會幹部の意見に對しては何等觸れず、單に金解禁實施の爲めには先づ財界の安定を圖るべきであるから、なるべく速かに實施すべきであるとの意見を述べたに過ぎなかつた

上海國卓會議

外人側から開催運動

上海外國人商業會議所では滿洲に於ける經濟問題を始め支那に於ける經濟問題に關する國卓會議開催に關する意見を交換する爲め來る六月中旬頃上海に國卓會議開催事務局を設置し、外務省に對し

花の東京

（11）

菊池寛

東京の魔手（五）

翌朝九時半頃、純三はわれなべ、とじぶたを、そっと、事務所へ運び込んだ。

「純やん！　行くのか？」

「うむ。何しろ、一週間ばかりの休暇は、一瞬間だって惜しいからな。事務所にも一寸用事があるし」

純三の生れは、金澤である。良一が、長太郎の家に厄介になって、遊んでいるのか、学校へ出てゐるのか、分らないやうに、暢氣に、ブクブクしてゐるのにくらべて、純三は、貧乏人の家に生れ、二十二のときに、東京へ出ると、一年一年、苦しく、我身を殺さねばならぬやうに、ばかり後に追ってゐた。

「いや、歸るのは僕だけだよ。僕の方から歸るんだよ」

「ふん。何時でもないだらう。君は、どうせ、何とも思つてゐないさ。だが、僕なんか、時々、ふと、いやになりかけると、伯父さんを盾に、吾慢してゐるやうに思はれるのが、いやだから歸るんだよ」

「いゝ度胸だ。男の兄弟のない良一は、どこか、重厚な所のある純三を、驚嘆する氣が、つねに心のどこかにわつた。

純三は、笑ひながら、鞄の紐をむすんだ。

「昨夜のことを怒ってゐるんか、何とも思つてゐないさ。だが、僕なんか、時々、ふと、いやになりかけると、伯父さんを盾に、吾慢してゐるやうに思はれるのが、いやだから歸るんだよ」

「ふん。何時でもないだらう。君は、どうせ、何とも思つてゐないさ。だが、僕なんか、時々、ふと、いやになりかけると、伯父さんを盾に、吾慢してゐるやうに思はれるのが、いやだから歸るんだよ」

「いゝ度胸だ。男の兄弟のない良一は、どこか、重厚な所のある純三を、驚嘆する氣が、つねに心のどこかにわつた。

純三は、笑ひながら、鞄の紐をむすんだ。

「昨夜のことを怒ってゐるんか、何とも思つてゐないさ。だが、僕なんか、時々、ふと、いやになりかけると、伯父さんを盾に、吾慢してゐるやうに思はれるのが、いやだから歸るんだよ」

「ふん。何時でもないだらう。君は、どうせ

新來秘帖 百鬼夜行

（續前未續載）

悟道軒圓玉作

（其八十二回）

怪しい影かき

お花は新堀の西願寺の門前で念の入つた変装をされ（註して休憩してゐると、バラ〳〵雨が降つて来た、ところへ（後からとへトお高いと思召すでございますが来たは一挺の駕籠下と言いた提灯が次第に近付いた。

花「駕籠さん、もし〳〵駕さん」

と呼び止めた

○「お呼びなさいましたか」

ぢびながら駕は、お花を見て

○「お呼びなさいましたは御さんでなございますか」

花「わたしだがね、悪いけで乗せ歩下さるとよ」

○「御新造様は何の辺へ参りまする」

花「僕はねお待の松の傍をよ」

○「ほうでございますか、サお高いと思召すでございますが御覧ぐるみ三束置きたいものでございます」

花「一歩上げるから急いでおくれ」

○「ハツ一歩くなさると、それは有難い、オイ文太郎御新造は菩薩人だ、雨も降り出したから急も切れるだらうと、それを乗して一

（なな）

といつた、これを聞いて良といふ駕かが

民「ツームさうなの、御新造大層お金を持つてゐますね」

といつたが、三百両持つてゐると三千行く間には駕屋に知れるうです、その時はみな正金で、しかもお花が持つてゐるは五六百両それでは刑にこたゐるは当然

花「よく判るね、一萬両ばかり持つてゐるよ」

とかういつた、駕屋はアハヽと笑ひ

民「へエー萬両」

花「欲しければ五千両ばかり酒手に上げるよ」

駕屋はおそろいたがトツ〳〵トツ〳〵と急いで金物橋にかゝりわれから左にされて坂本へ出た、その時は亜鉛を流すやうにざつと降り注ぐ、駕屋はこの雨を冒して飛ぶやうにかける、これに乗つてゐたお花はもう棒へ入つたであらうと編にかけた窓の間から外を見るとこゝは藏前、棒にそんなところはない筈と不思議に思つてゐた、内にその駕は藏地を抜けてドンとそれ〳〵下ろして

文「民や、こゝでよからう」

民「ウーム、こゝまで持ち込めばよからう、御新造様へ変ました上」

花「それでは連れて行つておくれ」

○「へエ畏りました、いや何うも悪い時分に降り出しました、今夜はみつちりしめりがさいませう、い文太郎、もつと駕を前へ持つて行け」

文「御新造お召し上すつてくださいませ」

バリ〳〵鏡の硝子を打ねてボンボンと雷鳴はだいぶほうを去りグルリや駕をすけた、お花は文太郎を伴れて乗りうつる。

○「へエ畏りました」

花「それでは連れて行つておくれ」

○「へエノー、私は駕りでお様を送るのが役目、棒は勿論大阪でも地獄でも参りまする」

花「この駕は提下だね」

○「へエ、私は軍吉店の下に居ります」

花「それでは仕事も変だね、今いつた通り急いでおくれ」

○「へエ畏りました」

そこで駕は桐油紙の覆をかけたそれは雨をふせぐため、駕は再び天れて西願寺をあとにして新堀についてこしや橋まで来た、今そこん本橋はありませんが森下から岡川町に行く途中の橋です、あの辺には寺が多く、日暮に狐式が通る、どころでこの橋をこしや橋といや、そこまで来るど駕屋が文「オイ民や、御新造さんは大分揺つてゐるぜ、みつちり用へこたへて行つてはくれないか

内閣の統計を楯に 賠償金の追加

要求の珍らしい訴訟

鐵道事故で負傷した男

鐵道の事故で負傷した人が訴訟に十數年を經て東京地方裁判所に提訴したものである

◇

この珍らしい訴訟は鐵道では頭痛つたが、もし統計局の統計がものをいつて又々鐵道が負ける事に決つた場合には多數の訴訟が同じやうに續發されるかも分からぬので鐵道は當局と東京地方裁判所に提訴したものである

◇

原告は東京市外目黒一六四九番地に住む男（六四）で、同人は大正十二年九月十六日歸宅の途中から他に一名と共に負傷した二〇四列車が前線本省と號所で脱線顛覆したその下敷となり全身に十數ケ所の重傷を負ひ爾來今日まで殆んど廢人同樣になつたが、鐵道では當時同人が一〇四列車に乘つてゐなかつたと主張し責任を否定し、大正十三年十月一日から昭和四年二月末日迄五十回の三千二百五十圓、續いて同年四月一日から同年六月末日迄五十回の三千二百五十圓の賠償金を鐵道から受取つた

◇

此の訴訟は大正十三年三月七日に起つたが、鐵道の當局者に姿勢を咎められたのに憤慨し、劍をその場に叩きつけてサッサと歸宅してしまつたので、遞信時の四十九歳で、遞信局の統計をもつて來たものならば當然十八ケ月は生命を繋ぐことの知り得る筈だと主張し、四年三月一日から繼續して五十回の賠償金を鐵道から受取つた

◇

鐵道の當局者は、もし統計局の統計がものをいつて又々鐵道が負けるに違ひないと考へ、裁判所に提訴したものである

◇

原告は東京市外目黒一六四九番地に住む男（六四）で、同人は大正十二年九月十六日歸宅の途中から他に一名と共に負傷した二〇四列車が前線本省と號所で脱線顛覆したその下敷となり全身に十數ケ所の重傷を負ひ爾來今日まで殆んど廢人同樣になつたが、鐵道では當時同人が一〇四列車に乘つてゐなかつたと主張し責任を否定し、大正十三年十月一日から昭和四年二月末日迄五十回の三千二百五十圓、續いて同年四月一日から同年六月末日迄五十回の三千二百五十圓の賠償金を鐵道から受取つた

◇

此の訴訟は大正十三年三月七日に起つたが、鐵道の當局者に姿勢を咎められたのに憤慨し、劍をその場に叩きつけてサッサと歸宅してしまつたので、遞信時の四十九歳で、遞信局の統計をもつて來たものならば當然十八ケ月は生命を繋ぐことの知り得る筈だと主張し、四年三月一日から繼續して五十回